

菊川市一般廃棄物処理基本計画 事前質問

No	ページ	質問・意見・回答	
1	4	Q	人口・世帯数でH21と比べR1で人口減（98％）と世帯数増（110％）ですが、家庭ごみ排出量の増減への影響はありますか。
		A	人口減、世帯数増から核家族化や単身世帯の増加が考えられます。家庭ごみ排出量の影響はあると考えております。 1人当たりのごみ量は増加し、世帯数当たりのごみ量は減少しております。
2	10	Q	過去6年間（H26～R2）の傾向を見ると、特にH30～R1でごみ排出量や1人一日当たり排出量に増加がみられるというコメントでしたが、要因として考えられることはありますか。
		A	No. 1の要因と考えています。
3	10	Q	家庭系ごみ排出量はR1が534g/人・日ですが、周辺（牧之原・御前崎・島田・袋井等）の各市の数値と比べるとどの程度、違いがありますか。
		A	H30 ごみ総排出量における1人一日当たりの排出量で比較します。 菊川市646g・掛川市646g・牧之原市857g 袋井市880g・島田市904g・御前崎市915gとなっております。
4		Q	「一般廃棄物の先進自治体」ベスト9の中に掛川市の記事が掲載されていますが、菊川市も同じ環境資源ギャラリーを共同利用しています。同様の取組を実施していて、同様の成果が上がっている様ですか。
		A	1人1日当たりのごみ排出量はNo3のとおり掛川市と菊川市は同量となっておりますが、小数点以下の数値により、掛川市の方が少なくなっております。 掛川市、菊川市が県内ごみの少なさ1位、2位、という状況から、同様の成果は上がっているものと考えます。
5	11	Q	最終処分場実績で、スラグ（埋立分）が大幅に増加している傾向ですが、自然災害廃棄物量が最終処分量の増加に影響しているということですか。
		A	H30. 11～H31. 2に処理施設のスラグ生成部分の不具合により、出来上がったスラグがJIS規格を通らなかったため、埋立処分（覆土利用）としたことによります。 また、以前は下水道や農業用水の管布設時の保護砂としてスラグを利用していましたが、現在管材料が進化し、砂巻が不必要となったため、需要が減少しています。
6	34・35	Q	溶融スラグの再生利用率はこの数年、何%くらいですか。
		A	H27：92.4％・H28：85.8％・H29：84.7％ H30：38.1％・R1：27.2％ となっております。

7	34	Q	H27～H29と比べH30～R1のスラグ利用分は半数ほどに減少しています。 公共工事等での溶融スラグ再生利用が少ないことから、有効利用があまりできなかったことが影響している結果ですか。
		A	No. 5の理由によります。
8	39	Q	溶融スラグ再生利用率の計算方法は？
		A	スラグ再生利用量 / (スラグ埋立量 + スラグ再生利用量)
9	16	Q	棚草最終処分場の埋立容量は78,000m ³ ですが、現時点での埋立実績量や残容量はあとどのくらいの年数で満杯になりそうですか。
		A	令和元年度に実施した残余容量調査によりますと、令和元年度末埋立済容量は42,546m ³ 、残容量35,454m ³ となっております。ただし最終覆土を9,953m ³ 予定しておりますので、廃棄物の埋立容量は25,501m ³ となります。年間平均埋立量は803m ³ となっており、計算の上ではあと31年間埋立可能となります。
10	51～56	Q	下水道、合併浄化槽、単独浄化槽、し尿汲取りを菊川市全域の世帯数で分類すると、個々の割合はどの程度ですか。
		A	令和元年度世帯数18,162世帯から1世帯当たり人数を2.67人で比較します。 下水道24.6%、コミュニティプラント1.6%、合併処理浄化槽42.1%、単独処理浄化槽27.5%、し尿汲み取り4.1%となっております。
11	51～56	Q	また下水道普及率は今後5～10年先に、どの程度まで増加する予定ですか。
		A	現計画の第4期整備事業(H29～R5)を完了させ、普及率を32.4%(15,500人÷47,842人)まで増加させる予定です。